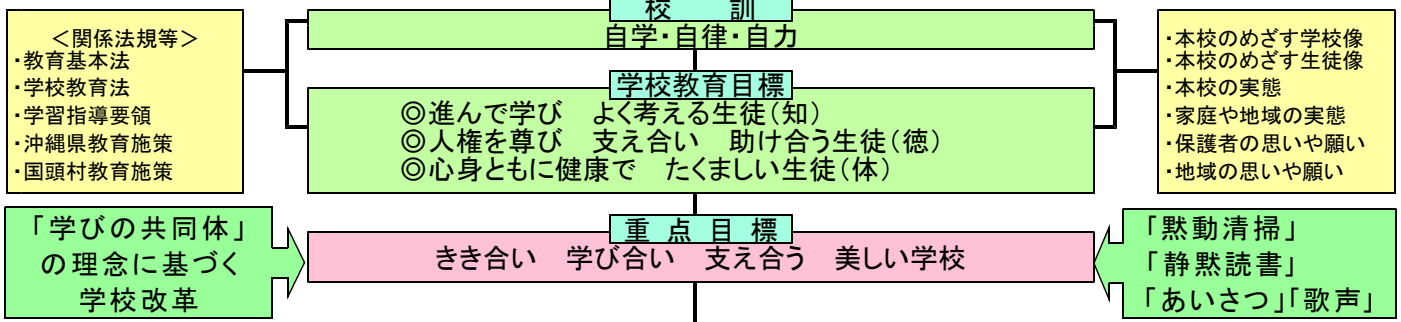


# 平成25年度 国頭中学校 学校評価全体構想



## 学校評価の定義

- ①自己評価: 学校目標や具体的計画等の達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について、学校の教職員が行う評価
- ②学校関係者評価: 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、行う自己評価結果についての評価
- ③外部アンケート: 生徒、保護者等を対象に行うアンケート等による評価

## 学校評価の目的

- ①目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、組織的・継続的な改善を図る。
- ②自己評価や学校関係者評価の実施と結果の公表・説明により、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。
- ③学校の設置者等が、学校評価結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図る。

## 期待される取組と効果

- ①評価結果を踏まえて学校が自ら改善に取り組むとともに、設置者に報告することにより課題意識を共有でき、設置者が予算、人事上の配置など適切な支援を行う。
- ②教員、保護者、地域住民等が学校運営について意見交換し、学校の現状等について課題意識を共有でき、相互理解を深めることができる。
- ③学校評価を学校・家庭・地域間のコミュニケーションツールとして活用することで、保護者・地域住民の学校運営への参画を促し、開かれた学校づくりを進めていくことができる。

## 学校評価のマネジメントサイクル

月	過程	自己評価 (学校)	学校関係者評価 (学校関係者評価委員会)	支援・条件整備 (教育委員会)
4月	P	<b>教育目標の共通理解と具現化の構想</b> ①前年度の評価結果や改善策等を反映 ②グラウンドデザインや各種全体構想を提示	<b>学校関係者評価委員の選出・委嘱</b> 学校評議員と兼ねて4名程度選出し、委嘱する。	<b>学校への支援</b> 学校訪問等を通して、学校運営の基本構想や学校評価の取組の概要の説明を聞き、必要な支援を講じる。
5月 6月	D	<b>具体的方策についての実践</b> ①全教職員の情報連携と行動連携 ②評価項目の検討・作成 ③各行事等のアンケートの実施と分析・考察	<b>第1回学校関係者評価委員会の開催</b> ①評価委員会の目的、役割等の理解 ②重点目標、自己評価計画等の理解	
7月	C	<b>中間評価の実施と分析・考察</b> ①生徒、保護者への外部アンケートを実施 ②自己評価の実施 ③評価結果の分析・考察	<b>評価に関する情報の蓄積</b> 学校関係者評価委員による学校訪問や授業参観及び意見聴取等により、評価に関する情報を蓄積する。	
8月 9月	A P	<b>中間評価の分析結果と改善策の公表</b> ①分析結果から成果と課題を共有 ②全職員による改善策の検討・決定	<b>第2回学校関係者評価委員会の開催</b> 中間評価結果の説明を受け、意見聴取等により評価に関する情報を収集する。	
10月 11月	D	<b>改善策に沿った実践</b> ①明らかになった課題と改善策を行動連携 ②各行事等のアンケートの実施と分析・考察		<b>学校の現状の把握</b> 学校が直面している問題や緊急課題などの現状を把握し、支援や条件整備について話し合う。
12月 1月	C	<b>最終評価の実施と分析・考察</b> ①生徒、保護者への外部アンケートを実施 ②自己評価の実施 ③自己評価書の作成	<b>第3回学校関係者評価委員会の開催</b> ①自己評価結果の説明を受けて、自己評価の結果について評価する。 ②学校関係者評価書の作成・提出	<b>学校への支援</b> 自己評価書、学校関係者評価書に基づいて、学校の支援・援助措置を実施する。次年度に向けて、人事・予算等への反映を考慮する。
2月				
3月	A P	<b>次年度教育計画の立案・作成</b> 学校関係者評価委員会で検討された成果や課題及び改善策を次年度計画に反映させる。	「現状維持は退歩への第一歩」 「一つも変えないのは無能、全部変えるのは無謀」	「学校は内側からしか変わらないし、内側からの改革は、外からの支援なしには持続しない。」
		<b>自己評価書・学校関係者評価書を教育委員会に提出</b>		
		<b>自己評価及び学校関係者評価の結果の公表</b>		

生徒・教職員・保護者と地域住民・教育行政の対話的参加による協同的な開かれた学校づくり